

## 第4回日田市中小企業振興推進会議委員発言記録（概要）

日 時：令和元年10月28日（月）10：00～

場 所：日田市役所7階 中会議室

（委員長）＊挨拶

- ・前は、主にKPIの実績を見てもらった。
- ・我々の役目は、次期推進計画を作ること。KPIの内容については、専門部会で十分精査し、叩いてもらったものが本日上がって来ている。十分に中身を確認したい。

### 【議題1 専門部会の開催概要について】

（部会長）

- ・専門部会では、かなり具体的で活発な意見が出ている。
- ・中でも、数値は大切ではあるんですけど数値だけではなく、どういう経緯をもってその数値にしたのか、しなくちゃいけないのか、その中身。その辺のところを本当にもっと深掘りしていかないといけない。というところが一番重要な部分になっている。
- ・各KPIに対してもご意見をいただいておりますが、数値は大事なんです、その数値を決めるにあたっての詳細をしっかりと親会で再度揉んでいただいて、施策につなげるというところを部会としては重んじて取り組んでいる。
- ・後ほど市長提言の話もあるのでよろしくお願ひしたい。

（委員長）

- ・数値の見える化、が大事。その数字に行きつくまでの内訳。行政にしても商工団体にしても一生懸命やっているが、その内容が地域住民、商工業者に伝わらないのは見える化の努力が足りないのではないかと、という感じはする。
- ・できるだけやっている内容を見える化して、オープンにしていく。また、成果も見える化していく。部会長からも話があったように議論の経過も見える化していくことが大事。

### 【議題2 計画目標の検討結果について】

- ・基本方針ごとに、専門部会での議論の内容と、議論後の令和5年度の目標数値について説明。すべての目標数値について、委員長報告のとおり了承された。

#### 1 経営基盤の安定強化

（委員長）

- ・日田市ビジネスサポートセンターの年間相談件数、商工会議所・商工会の年間相談・指導件数、市の融資制度の年間融資件数は、当初計画と同じ数値とする。
- 市外での物産展等への年間出店事業者数は、専門部会の議論を経て、20社から30社

に目標を変更する。

- ・これは先ほどご意見があったように。目標の30社も大事だけど、出展者に対して満足度の調査や、出せる範囲での売上高の見える化などが必要だろう。

● **日田市アンテナショップ大丸福岡天神店での年間売上額**も、専門部会での意見を踏まえ年1億円の目標に、毎年200万円ずつ増と目標を変更する。

- ・こちらも、アンテナショップでの売上げも大事だが、広告宣伝・普及拡大を狙っている企業もいるので、それぞれ効果が出ているかどうかの満足度を調べる必要がある。賃借料についても、出来ればどこかで見える化してあげると良いが事務局で考えて欲しい。

(A委員)

- ・アンテナショップやイオン等は、集客のための周知にどのような取り組みをしたのか、その点について、詳しく出してもらえるとよい。

(委員長)

- ・出展者についても、どのような募集をし、どの程度集まって、という情報も欲しい。

## 2 中小企業の活用による地域内の経済循環の創出

(委員長)

● **商店街の空き店舗数**（目標値）は、利用可能な空き店舗数という表現にすべきだろう。誤って伝わってしまう。下位指標（説明資料）を作るのであれば、商店街ごとの店舗数も書いておく必要がある。また、空きコマというのか、実際には使えない店舗もあるのであれば、その説明も必要だろう。

(B委員)

- ・利用促進を図るという目的であれば、目標値としては41店舗中80%など、とするのではないか。表現の仕方として。

(事務局)

- ・考え方としては、現状の41店舗を増えないように施策を打っていくというもの。

(委員長)

- ・空き店舗を埋めていくというよりは、廃業による空き店舗を防ぐ、ということか。確かに、実際に空き店舗を埋めていくことは難しい。

(C委員)

- ・41店舗が使えなくなれば減っていく、という側面もある。

(委員長)

- ・これ以上空き店舗を出さない。施策としては、まちなかりノベーション推進事業を行うということで整理する。書き方は、事務局で検討してほしい。

● 次に、**家具・装備品製造業の年間製造品出荷額等**は、数値が落ちているが先ほど説明のあったとおり、火災により10億円程度の企業が廃業したということ、説明資料に記載しておく必要がある。大型廃業による影響あり、など書いてもよいだろう。

- ・全体的に、目標値を下げているところは、何らかの理由を書いた方がよい。
- ・小売業年間商品販売額は、同じ目標値とする。

- ・市内商店街での購買シェアは、平成29年度調査が最終、令和2年度に再調査と書くようにする。
- 木材・木製品製造業（家具を除く）年間出荷額と、市の建設工事の市内業者発注件数割合は、数値目標を上げる。
- ・市の物品の市内業者発注件数割合は、目標を下げず、市内業者の割合を上げるよう頑張る。

### 3 経営の拡大及び新分野への進出の促進

(委員長)

- ・日田市工業連合会の会員企業数は、団体会員数等が減っているが目標は下げないもの。
- 既存誘致企業の増設及び新規立地件数について、5年間で12件だったのを、厳しい立地環境のため、4年間で8件にする。
- 企業誘致等による新規雇用者数について、5年間で147人だったのを、IT企業などの誘致を戦略的に進めるため、4年間で61人とする。
- ・年間観光入込客数は、韓国との関係が不透明なのもあるが、現状の年間5,000千人の数値を目標とする。
- ※ 農産加工の新商品年間開発数は、事業がないのでKPIを落とすということは市として問題である。商工連サイドでも、農産加工の新商品開発の案件は上がってきているはず。

(D委員)

- ・うちの管内では、加工業者が農家さんから仕入れて…という形ですが。ゆずあたりで。

(委員長)

- ・農林水産省業は6次産業化、経済産業省は農商工連携と大きな施策を打ち出して、付加価値を上げましょう、とやっている。これに伴って、経済団体の支援措置も続いている。何らかの数字をそこから取ってくるとかしないとまずいだろう。担当課と話をしたい。
- ・予算としては、これまでやったものをサポートしていく、商工団体との連携の中で引き続き支援を行っていく。農業改良普及員と連携して。

(E委員)

- ・事業がないと、数値は拾えないと担当課は思っているかもしれないが、商工団体で何か数値を把握できるようなものがあれば、別のアプローチがあってもいいと思う。

(委員長)

- ・市の予算がないから上げない。というのではなくて、国や県と連携を取った、ネットワークを生かして紹介してあげてはどうでしょう。
- ・この数値を落とすのはまずいだろう。今まであったやつを落とすのは。
- ・全部が全部市の単独事業でやるのは、厳しい財政状況からも難しくなっている。国県のものを紹介して、一緒に入り込んでいくという風に検討してもらいたい。
- 商工会議所が発行する貿易関係証明発行件数は、年15件を、年20件とする。

## 4 創業の促進

(委員長)

- 日田市創業支援事業計画に基づく年間創業者数は、数値目標を1件増やし14件とする。この件数に、日田市ビジネスサポートセンターの支援による創業者数10件が入っている。残りの4件は、商工会議所・商工会が担当。今後は、内数などの表記を検討してほしい。
- ・ 開業資金の新規融資件数は、5年間で10件を年間2件へ、女性若者起業支援資金の新規融資件数は、シニア層を対象に含み、5年間で50件を年間10件と表現を変更する。
- ・ 創業の促進に関しては、県内でも多くの自治体が創業補助金を創設して取り組んでいる。後は竹田と日田ぐらい。創業時はなにかと大変。金額や件数が少なくても、重要項目だと知ってもらえるよう、創業補助金を考えてもらいたい。
- ・ 創業支援セミナーが創業補助金の支給要件になると、参加率が上がってくる。

(F委員)

- ・ 創業支援セミナーを受けていると、法人化の際の登録税を半額負担してもらえること、などを知ることができた。
- ・ 創業補助金はないけど、まちなかりノベーション推進事業が創業者に使える。

(委員長)

- ・ 創業補助金があればいいんだけど、事業化ができなかった時は、再掲で記載すればよい。創業補助金を再度、検討してもらいたい。

(G委員)

- ・ ちなみに、シニアは何歳を想定していますか？

(事務局)

- ・ 60～65歳を考えている。シニア世代の創業相談は、今のところBizサポでは受けていないようだ。

## 5 人材の育成・確保と事業環境の整備

(委員長)

- ジョブカフェおおいた日田サテライト登録者の市内企業への就職者数は、最近の実績から、5年間で480人とあるのを、4年間で280人とする。
- ・ 次にハローワーク日田管内の高等学校卒業者で就職希望者の管内就職率は、目標値を変えないものとする。
- 求職者資格取得支援事業利用者の市内就職者数は、事業が終了している案件なので、項目を削除する。
- ・ 技能検定の年間合格者数と日田共同高等職業訓練校の年間入学者数は、目標値をそのままとする。
- ハローワーク日田管内の育児休業年間取得者数は、年190人を、年200人に10人増やす。
- UIターンによる年間就職者数は、新規事業の開始が条件となるが、年間30人とする。

是非、新たに取り組んでいただきたい事業である。

- ・日田市シルバー人材センターの就業者と、若い世代の結婚・子育ての希望が実現した場合の合計特殊出生率は、目標値そのままとする。

### 【議題3 市長への提言について】

(事務局)

- ・市長への提言について、専門部会での議論の内容を説明。

(部会長)

- ・なぜ、市長提言を行うのか。というところは、専門部会は中小企業家同友会の経営者が多く、前向きな経営者は何らかの結果が欲しい、目に見えるものが欲しい。
- ・大村市を見てきたのもあるが、中小企業者からボトムアップしていきたい。
- ・あくまでもたたき台として示すもの。
- ・どういうやり方で、また内容で提言するかは推進会議で論議して欲しい。
- ・中小企業振興基本条例の普及啓発は、同友会が中心となって考え、知恵を絞って行う。
- ・そもそも、この条例を知らない方が日田市にたくさんいるのが本質。

(委員長)

- ・市長提言は、推進会議として提言することになる。その内容は、振興計画に盛り込んでおかないとおかしくなる。
- ・たたき台だが、せつかくなら5つの基本方針に合わせた方が既存の事業と合わせて見やすくなる。
- ・地域ブランディングは、当たり前の話。高付加価値化、生産性向上により、最終的には賃金が上がることにつながる。
- ・子育てと仕事（働き方）の両立を支援することは、長期的にも重要。
- ・働く情報とか、中小企業支援施策のワンストップ化も大事なこと。
- ・雨天対応型のイベント広場は、目的が商工だけではないし、現在の市町村財政では施設整備はハードルが高い（多目的広場という切り口か）
- ・異業種、異年齢の集まりによる市の施策検討会は、すぐにでもできる。
- ・市の組織名は、皆さんからの要望なのでそのまま提言の形にする。
- ・条例、奨学金もそのまま提言できる。
- ・工場見学の中体連は、別府プロジェクトも同じようなことをやっていた例がある（工場がきれいになり、売上が上がった）
- ・農産加工の新商品開発支援、書くからにはさっき言ったように他の機関の支援策を活用する。
- ・日田オリジナルのはじめて箱の製作は、どこかの項目に入れ込められないか。地元産品でお祝いしてあげる。福祉保健部が絡んでくるが、研究する必要がある。

(H委員)

- ・ちなみに、はじめて箱（無料）はTOSとか、FBSがCOOPと組んでやっている。
- ・日田で生まれた方全員に、日田杉オリジナルとして積み木とかを入れられるとよい。子

育て支援・応援という名目で。

(委員長)

- ・これは、福祉保健部と協議が必要。商工労政課の事業ということには、ならないだろう。
- ・そもそもは、福祉部門で考える中で地元産品、商工団体の製品を使うという流れなんだろう。どの事業者を使うか、というところは公平性の観点から少し難しいだろう。

(事務局)

- ・担当課へ現在行っている施策を確認するとともに、事業化が可能か協議を行いたい。

(委員長)

- ・情報公開もK P I も取り組む内容としてはよい。K P I の深掘りは、満足度的な要素を数値化していく。県の活性化条例の委員会は見える化しているので参考にして欲しい。

#### 【議題4 中小企業振興計画の見直し箇所について】

(事務局)

- ・今後、振興計画の文章の部分も、委員の皆さんに見直しが必要か確認を依頼する予定。

#### 【議題5 その他】

(事務局)

- ・11月中に一度、専門部会を開催し、市長提言の大枠をまとめたい。
- ・次回、第5回の推進会議の日程は、12月初旬ころに開催したい。
- ・パブリックコメントは、次回の推進会議後に1月程度行う予定。

(部会長)

- ・中小企業振興基本条例の普及啓発を、中小企業家同友会が中心となって行うことについて、委員の皆さんに確認したい。

(委員長)

- ・できれば、市や商工会議所、商工会を巻き込みながら、共催や後援として行っていただきたい。条例の普及啓発を行っていただくことは、とても良いこと。

以 上